

日本の展望委員会「地球環境問題分科会」（第5回）議事要旨

1. 日時 平成21年4月16日（木） 10:00-12:10
2. 場所 日本学術会議6階 6-C（1）会議室
3. 出席者 河野長（委員長）、鷺谷いづみ（副委員長）、中島映至（幹事）、高村ゆかり（幹事）、淡路剛久、佐藤文彦、村上周三、山地憲治、山本眞鳥
欠席者 植田和弘、岡田清孝、佐藤薫、前田正史、松井孝典、安成哲三
4. 議題
 - （1）前回議事要旨（案）の確認
 - （2）起草分科会に提出した報告等について
 - （3）報告書作成について
 - （4）その他
5. 資料
 - 資料1 日本の展望委員会「地球環境問題分科会」（第4回）議事要旨（案）
 - 資料2 起草分科会あて報告書骨子原稿（2009/03/16）
 - 資料3 科学技術基本計画（第4期）への提言（案）
 - 資料4 地球環境骨子概要（09/03/24）
6. 議事
 - （1）前回議事要旨（案）の確認
 - ・前回議事要旨を確認し、採択した
 - （2）起草分科会に提出した報告等について
 - ・河野委員長より前回会合以降の経緯について、以下のように報告が行われた。前回会合の議論をふまえて、資料2、資料3を起草分科会に提出した後、4月の学術会議総会までに報告を出す必要があるとのことから資料4を日本の展望委員会に提出した。総会では、進行状況の報告がなされ、8月末までに起草分科会に各分科会が報告案を提出するとのスケジュールが確認された。この分科会では、7月の半ばくらいまでには作業をおおよそ終えるような形になればよいと考えている。
 - （3）報告書作成について
 - ・次のこの会合を5月25日（月）15時から17時で予定している。次回会合で第一次原稿をご議論いただけるようにし、その後、メールベースで作成を進めていくような進め方がよいのではないかと考えている。これまでの議論では、起草分科会に提出した報告案を基礎にして報告書を作成していくということになっていたもので、報告書案について意見があればお願いしたい（河野）
 - ・資料2と資料3を見ると、資料3の（3）（地球環境問題の総合的・統合的政策形成と『多目的気候環境シュミレータ』の構築）は、資料2の温暖化の中に置かれるべきではないか。資料

2 に、資料 3 の (3) の記載がない (山地)

- ・資料 3 は科学技術基本計画への提言という位置なので、資料 2 とは位置づけ、性格が異なっている (河野)

- ・資料 3 の (3) の記載は資料 2 の中に入れるほうがよいだろう。資料 2 の III (1) の中に記載しては (中島、河野)

- ・資料 3 (3) の「シュミレータ」という表現については違和感もあるとの意見がすでにこれまでも出ていたので、もう少し分科会で議論する必要があるだろう (中島)

- ・「シュミレータ」「気候」が小見出しに出てくるのは抵抗感がある (山地、村上)

- ・以前の議論をふまえると、「シュミレータ」というよりも「モデル」ではないか、「気候」というよりも「環境」ではないか。問題相互間の連関を明らかにするということにその主旨があったはず (淡路)

- ・分野によってはモデル化そのものの研究が必要。自然科学、工学だけでなく、人文科学、社会科学の貢献も必要 (鷺谷)

- ・資料 3 の (3) は、「(3) 地球環境問題の総合的・統合的政策形成メカニズムの構築」といった表現か (中島)

- ・(3) の文書は、意見を受けて、まだ修正する前の文書で、十分修正できていない (河野)

- ・(3) の文書は、今後とも使用する可能性があるので推敲をしておくのがよい (中島)

- ・資料 2 の II (3) (資源・エネルギー) の最後の段落にある、「ノングリッド」「スポット」を、「独立分散型」にかえ、さらに蓄電池を加えるべき (山地)

- ・同じ段落にある「貧困国」という表現は変更すべき (山本)

- ・資料 2 の構成でよいか。資料 2 で落ちている論点がないか (鷺谷)

- ・人口問題、経済発展とエネルギー問題のデカップリングをいれる。II (地球温暖化問題の原因たる社会・経済システムの課題) の冒頭に入れては (村上)

- ・III (地球環境問題の解決に向けた統合的な地球環境研究の推進の課題) の冒頭に、経済システムを 10 年、20 年で変えていくことの必要性について記載する。植田先生に書いてもらおうとよいのではないかな (淡路)

- ・「経済システムモデル」といったものを III (1) (地球環境問題への統合的アプローチ) に入れるとインパクトがあるのでは (村上)

- ・文書の冒頭に前書きを作って、文書全体の大枠に関わる点について述べる。地球規模の環境問題の存在、人類の生き方、経済システムのあり方が問題となっていること、その変革が必要であることなど。II (地球温暖化問題の原因たる社会・経済システムの課題) の冒頭に、経済システムの転換が必要であることを記載し、III (地球環境問題の解決に向けた統合的な地球環境研究の推進の課題) にそれゆえに統合的アプローチで解決策が必要といった形か (河野)

- ・I (地球規模の環境問題と学術の課題) と II (地球温暖化問題の原因たる社会・経済システムの課題) を切り離して書くのは難しい。例えば、I (4) (生物多様性・生態系の危機) と II (2) (食料・農林水産業) を切り離すのは難しい。環境と人間社会の相互作用を解明することが必要であり、一次生産がもたらす生態系の危機があり、また、生態系の悪化が食料生産に悪影響を与える。こうした構造を明らかにするような書き方が必要ではないか (鷺谷)

- ・原因群の相互関連性、複合性から I と II をいっしょに記載するのは難しいのでは（河野）
- ・別々に書いたほうが書きやすく、読み手にも読みやすいのでは（佐藤）
- ・錯綜した問題状況を前文にふれておく（村上、山本）
- ・I、II を別にしたまま、一定の重複もあり得る形で、それぞれの箇所で重要であれば書いてもらう（高村）
- ・論点として落ちていることとして「参加」の問題がある。多様な主体が理解をして、関わっていくシステムの構築の必要性を記載しておく。国際的枠組においてはこうした「参加」のシステム構築はかなり進んできている（鷺谷）
- ・III（地球環境問題の解決に向けた統合的な地球環境研究の推進の課題）の中に入れてはどうか。参加と貢献（stewardship）の重要性も指摘されている（村上）
- ・III の並べ方を変えた方がよい（淡路、村上）
- ・III の並べ方については、レベルの異なるものが並んでいるので、もう少し検討する（河野）
- ・アジアにおける学術の貢献だけではなくて、世界的貢献とすべき。この小見出しは、「日本の学術の国際的貢献」としてはどうか（鷺谷、山本）
- ・これまでの議論の中で、とりわけ「アジア」に重点を置くことの意義について強い意見があった（河野）
- ・南北問題解決への貢献を記載すべき（村上）
- ・20 頁くらいの分量ならば、I、II..、(1) (2) ... の下に小項目を立てて使ってはどうか。「日本の学術の国際的貢献」の下に「アジア」の小項目を立てては（淡路）
- ・「大規模生態系観測」が GEOS の中にあり、研究者のやってくることをきちんと位置づける（鷺谷）
- ・観測について、佐藤薫先生に具体的に書いてもらったほうがよい（中島）
- ・FACE 実験が予算的に厳しい。観測とは異なるが、継続を支援することが必要なものも書き入れてはどうか（佐藤文）
- ・長期の生態系の観察ができていない。科研費だと長く続かない（鷺谷）
- ・観測システムに対するアセスメントが重要。最適化をはかる必要がある。研究者によって行われている観測を効率的に取り込む（中島）
- ・ライフスタイル、経済システム、人口問題が地球環境問題の原因と言えるのではない。これらがもたらす環境負荷が原因といった表現を記載しては。都市などの記載があってもおかしくない。II のタイトルは考えてはどうか。「問題と解決に向けた課題」とか（村上）
- ・I と II にある程度は重複がある。それぞれの重点の置き方ははっきりしたほうがよいだろう。また、もう少し内容を固めてから見出しを確定した方がよいのではないか（河野）
- ・客観的数字とかデータをどのように取り扱うか。引用をしっかりと入れてはどうか（鷺谷）
- ・Evidence ベースで引用（鷺谷、河野、村上）
- ・資料集のような別冊を作るのか（淡路）
- ・Peer review をへたものを原則として引用する（鷺谷）
- ・学術会議が作成したものは引用することを求められている（河野）
- ・II (2) には林業に関する記載を入れてもらう（山本）

- ・ III (4) の「研究基盤の課題」は、特化することはいらないかもしれないが、すべての分科会から出すことが必要（佐藤）
- ・ 当面の残しておいて今後検討する（河野）
- ・ III (1) の「地球環境問題への統合的アプローチ」の中で、資料 3 の「シュミレータ」についてもふれる（河野）
- ・ 次回 5 月の会合までに担当から文案をだしていただく。文章 2 倍くらいを上限にふくらませる。参考文献もあわせて出してもらおう。図表もお持ちいただく（河野）
- ・ フォーマットについては、4 月の起草分科会で議論されるのではと思われる。参考文献は内数、外数か、資料集を使って、フォーマットは統一かについて、起草分科会に確認する（河野）
- ・ 「日本の展望 ○○（分科会）」、要旨、目次、参考文献は外数の可能性が高い。図表は内数と今のところは考えておいてほしい（事務局）
- ・ (1) (2) ... の下の項目は、見出しゴシック、ナンバリングなしでお願いしたい（河野）
- ・ 4 月総会の資料を配付する。他の分科会の議論状況については、website 上で連携会員限定で見ただけのように、来週くらいからできる予定である。この分科会は、持続可能性分科会などの議論と関係があるかと思われる。環境学分科会（第三部の下）はあまり議論が進んでいないが、この分科会で見ていただく必要があるかもしれない（事務局）
- ・ 以前農学委員会からコメントがあったが、同じようなことがあるかもしれない。作業をしながら随時他の分科会の議論を参照することを行っていく（河野）
- ・ 委員長、副委員長、幹事のどこかに送っていただければ、みんなに送付する。次回会合（5 月 25 日（月））の最低一週間前にお送りいただきたい。分科会の前に circulate するためをお願いしたい（河野）
- ・ 広渡先生から、当初は 8 月をお願いしていたが、総会が 10 月後半（19、20、21 日）で、そこまでに中間報告案をつくる必要があるため、8 月の締め切りが前倒しの可能性がある、との発言があった（事務局）
- ・ 資料 6 が総会時に起草分科会から配布された資料。報告書の分量については「20 頁程度」との記載がある（事務局）

・ 文案を出していただく担当の案

- 序文（全体の大枠）（河野）
- I. 地球規模の環境問題と学術の課題
- (1) 地球温暖化（中島）
 - (2) オゾン層破壊（佐藤薫）
 - (3) 有害物質による環境汚染（高村）
 - (4) 生物多様性・生態系の危機（鷲谷）
- II. 地球環境問題の原因たる社会・経済システムの課題
- 序文（植田）
- (1) 人口問題（前田）
 - (2) 食料・農林水産業（佐藤文彦）

(3) 資源・エネルギー（前田、山地）

III. 地球環境問題の解決に向けた統合的な地球環境研究推進の課題

序文（植田）

(1) 地球環境問題への統合的アプローチ（淡路、高村）

(2) アジアにおける日本の学術の貢献（安成、山本）

(3) 継続的な環境観測とその高度化（佐藤薫、中島）

(4) 上記の課題遂行のための研究基盤の課題

(4) その他

・特になし

以上